



がん患者と医師が検診受診の大切さを語り合った
トークショー

がん検診で早期発見を

松前経験者ら呼び掛け

がんになっても自分らしく生きられる社会づくりを目指す啓発イベントが21日、松前町筒井のエミフルMASA SAKIであり、買い物客らに検診の大切さなどを呼び掛けた。

「がんになる前なんてから」をテーマにしたトークショーには、県内のがん患者3人と四国がんセンターの谷水正人副院長、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会の松

って日常の何げない幸せに気付いた」「職場にはがんと打ち明けづらい雰囲気根強い」という意見も出た。

谷水副院長は、県内の13病院内にある「がん相談支援センター」で、患者や家族からの療養生活全般の相談に無料で乗っていることを紹介。腹膜がん、乳がん経験者の松山市の会社員、藤川初美さん(58)は「いずれのがんも自発的に行った検診で発覚したと話し、「早期の診断で治療の大変さが違った」と検診の重要性を強調した。

イベントは県がん診療連携協議会とNPO法人わたしのがんねt(東京)が主催。会場では、看護師とソーシャルワーカーによる出張相談や、患者と家族が自由に語り合う「がんカフェ」もあった。(豊田さやか)